ekkono
Soccer Services Barcelona

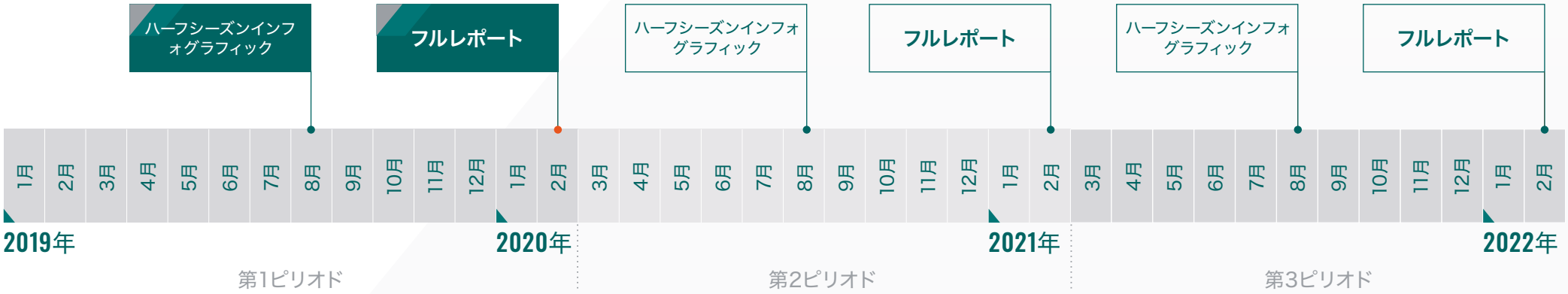
クラブのアイデンティティを作る

ファイナルシーズンフルレポートファーストピリオド

アルビレックス新潟

レポート説明

コースは3年間のコラボレーションで構成されており、全6回のレポート（うち2回/ピリオド）がクラブにプレゼンされる形になります。それにより、今回のプレゼンは全6回のうちの2回目になります。



メソッド部門としての目的

主目的 2022

アルビレックス新潟アカデミーが北信越で最もプロ選手を輩出する育成組織にする

第1目的 2019-2020

アルビレックス新潟アカデミーが北信越一番の指導者の集団なる様にする

第2目的 2021

アルビレックス新潟アカデミーが北信越で若手選手個人向けそして育成トレーニングを実施する組織にする

主要目的を達成する為の主な業務内容

戦略目標を達成する、そして組織として弊クラブと外部クラブとの関係性の構築しやすくする為に1年目のコラボレーションを通して行われました。

TALKMADE

1. ゲームモデル
2. コーチングライン
3. コーチング養成

CO-LEARNING

4. 分析エリア部門

SMARTFIELDER

5. 認知エリア部門
6. 個人向け選手パフォーマンス向上プログラム

ファーストアクション

ゲームモデル

TALKMADE

ファーストアクション

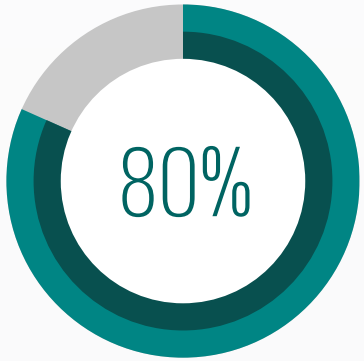
ゲームモデル

行ったことは何か？

プレースタイルの構築

達成できた事は何か？

監督/コーチによるプレーエピソード、集団プレー原則、ポジティブトランジション、ネガティブトランジション、ディフェンス、オフェンスについての理解をして頂く

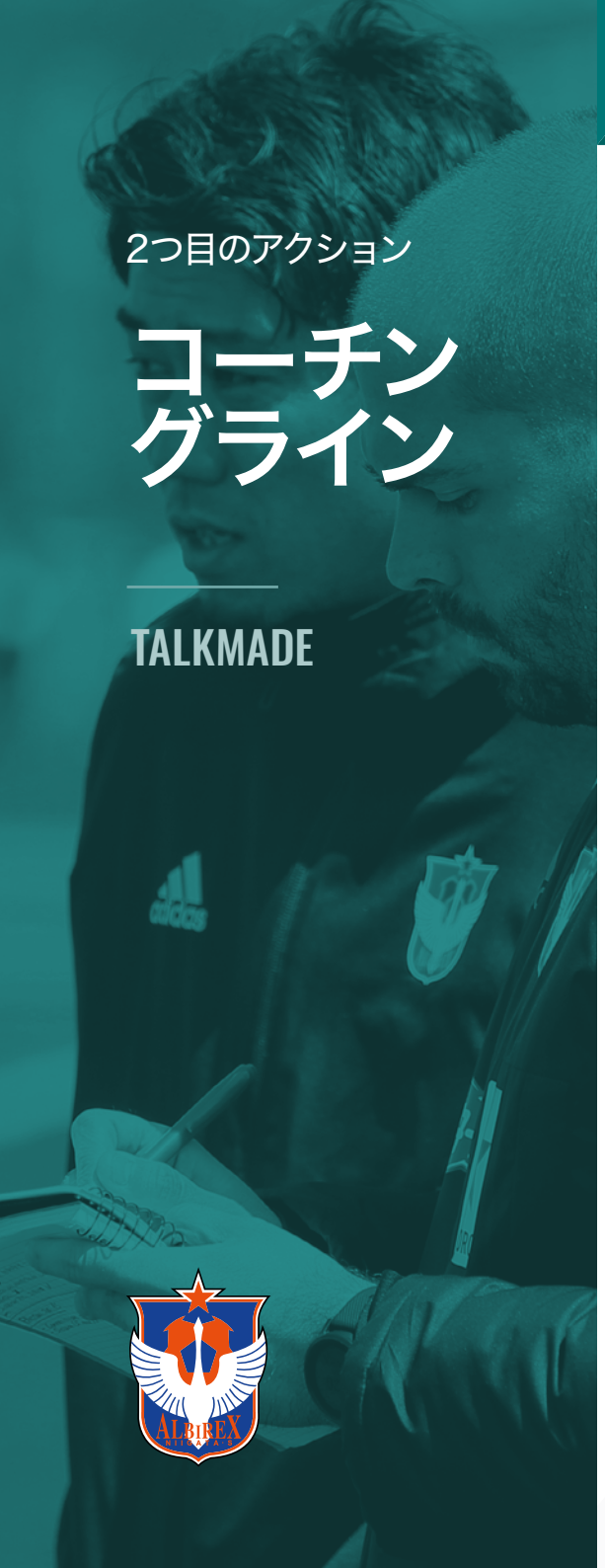


ゲームモデルバーション1.0の80%が出来上がる様にする

次のステップは？

違うチームでのトレーニングを行う事で学ぶ上での貢献

違うチームのプレースタイルの識別



2つ目のアクション

コーチングライン

TALKMADE

2つ目のアクション

コーチングライン

行ったことは何か？

月に毎週行われるメソッド部門ディレクターとコーチとの面談を通して、トレーニングのプランニング（テーマ、コンセプト）の設定を行う。

次のステップは？

シーズンを通してコンセプトについてのトレーニングをコーチ陣がカレンダー化する

トレーニングのオーガナイズをする為の共有のドキュメントを使う

達成できた事は何か？

監督/コーチの方々にトレーニングを実行する前にそのトレーニングでの目的とその為の準備の重要性を理解して頂く。

各監督/コーチと一緒に作成した共有のドキュメントを使用して、そこに記載してあるテーマについてのトレーニングをしていく。

60%

トレーニングするテーマの選出が60%完成出来ている状態にする

3つ目のアクション

コーチエデュケーション

TALKMADE

3つ目のアクション

コーチエデュケーション

行ったことは何か？

毎週のテクニカルデスカッションを行う目的は色々なテーマに対して、技術的な事に関しても要求していく事。

次のステップは？

クラブ内の各カテゴリーのチームに対して様々なプロセスを説明するために、コーチ陣に大きな責任と価値提供する

達成できた事は何か？

技術的な観点の質問を通してクラブのコーチ間の考え、知識を共有し価値を高めていく。

コーチ陣と34回のテクニカルディスカッションと81回の個人面談を行う

34
グループ

81
個人

4つ目のアクション

分析エリア部門

CO-LEARNING

4つ目のアクション

分析エリア部門

行ったことは何か？

それぞれのコーチ陣が構築されたゲームモデルに沿ってチームの試合分析をしてビデオを切ります。コーチ間でも映像分析をする際にテーマについてディスカッションをしてもらう。

達成できた事は何か？

確率されたゲームモデルを基にコーチ陣が映像のカットも出来る様にする。

映像カットする為に必要な学びと理解

4

コーチ陣

コーチ陣の間でフィードバックをしあう状況を4人行っている状況を作る

次のステップは？

テクニカルディスカッションの回数を増やしていく

各カテゴリーのコーチ陣にビデオをカット出来る様な形を作る

5つ目のアクション

認知エリア部門

SMARTFIELDER

5つ目のアクション

認知エリア部門

行ったことは何か？

月に各カテゴリーに対して一週間を通して認知トレーニングをメソッドディレクターが指揮し、他の週に関しては各カテゴリー担当のコーチが認知のトレーニングを行う。

達成できた事は何か？

各監督/コーチがメソッド部門ディレクターによるデモンストレーションを行う。それぞれが認知トレーニングを行う事が出来る様にする

次のステップは？

各カテゴリーのコーチ陣に認知トレーニングの作成をしてもらえる様にする

コーチ陣が認知トレーニング用のゲーム（トレーニング含む）を作成および指導出来る様にする

100%

アカデミーコーチ陣の

アカデミーコーチ陣を巻き込み、100%の確立でコーチ陣が認知エリアのトレーニングの流れに参加できている状態にする

6つ目のアクション

個人向け選手パフォーマンス向上プログラム

SMARTFIELDER

6つ目のアクション

IPPPs

行ったことは何か？

12

IPPPS（U18から8人+U15から3人）、3回の個人コンサルティング、加えて選手に対して実践トレーニングも行います。

U18
KAKERU WADA

U18
KOSEI YAMAMOTO

U18
RIKU SASAGAWA

U18
RYODAI TSUJI

U18
SHUYA HONDA

U18
SO ODA

U18
MAHIRO TAKAHASHI

U18
SORA TAKAHASHI

U15
TSUBASA MORITA

U15
SHUTO MARUYAMA

U15
RYO NISHIMURA

U15
SHUYA TAKANO

達成できた事は何か？

中長期的な目標をもって降り組む中で選手達が改善する部分に対しての自身を持ってもらえる様にする

アカデミーの選手

4 U15
から4人の選手がユース昇格し

2 U18
卒業生の内、2人が北信越、関東の1部に所属する大学に進学

KAKERU WADA | RYODAI TSUJI

次のステップは？

新しい選手の獲得とその為のプロセスの作成を行う

THE INVISIBLE PART OF SUCCESS

ekkono

Soccer Services Barcelona